

「柏崎の橋」 29 小倉橋（おぐらばし）

市街地から国道 353 号線を南進し、新道地内の南中学校付近で鵜川を交差して、新道郵便局前を過ぎた所で左折すると、市道柏崎 8-56 号線になる。ここで再度、鵜川と交差する場所に掛かっているのが小倉橋である。

柏崎文庫には、「小寺嶋橋（小倉橋） 小字下村より五反田水落より堀村へ通ず道にあり」と記述がある。また白川風土記には、新道村の項に「小寺嶋橋 村ノ南鵜川ニ架ス板橋ナリ長サ十五間幅二間村普請」と記されているので、江戸時代後期には存在していたことが分かる。

大正 7 年発行の刈羽郡高田村是には、「（鵜川）下流ハ河身屈曲甚シク非常降雨ニ際シ河水氾濫シ水害ヲ被シムルコト屢々ナルヲ以テ三四年來年々数十円ヲ投シテ新道地内小倉橋以北兩岸ノ水流ニ支障スル雜草木を剪除セシヨリ水害ヲ減スルヲ得タリ」、「橋梁ハ鵜川ニ架セラレタル日高橋ハ県経営ニ係リ村経営ハ小倉橋ヲ最長トシ…」とあり、当時から高田村の主要な橋であり、かつ水害に悩まされていたことが分かる。

当館所蔵の高田村全図（1/20,000、作成年不明（左から右への横書きなので戦後のもの））にも、右下凡例の他に、手書きで水害・病虫害・冷害の凡例が付けられ、農作物の被害範囲が記録されている。

小倉橋の変遷が、地元新聞に何度か掲載されているので、順を追って記す。

まず昭和 6 年（1931 年）11 月に、当時の郡下新道安田停車場線（高田村村勢一班では県道となっている。）に掛かっていた小倉橋の架替工事が完成し、飯塚新道村長の主催で竣工式及び渡初式が挙行された。



その後、昭和 27 年（1952 年）7 月の豪雨で高田村を中心に被害が生じ、小倉橋（幅 3.6m、長さ 21m）が流失した。昭和 28 年（1953 年）8 月からの復旧工事を経て、同年 12 月 10 日に竣工式が行われた（写真①）。工費は 325 万円で、幅 4.5m、長さ 24m の鉄筋コンクリート橋である。



現在の橋（写真②）は昭和 45 年に竣工したもので、幅 4m 余り、長さ 52.4m である。小倉橋のすぐ北側に、南中学校前を通る主要地方道の、新潟県道 73 号鯨波宮川線が開通していることから、小倉橋周辺は自動車の往来も少なく、閑静なたまたまいとなっている。

●参考資料

- ・柏崎文庫 16 巻 関甲子次郎著（080 セキ 16）
- ・白川風土記 越後国刈羽郡之部 広瀬典著（224 ヒロ）
- ・刈羽郡高田村是 五十嵐栄吉編（352 カリ 17）
- ・高田村村勢一班 高田村役場編（352 カリ）
- ・昭和 6 年 11 月 7 日付け 柏崎日報 3 面
- ・昭和 27 年 7 月 2 日付け 柏崎日報 1 面
- ・昭和 28 年 12 月 8 日付け 柏崎日報 2 面
- ・新道村写真アルバム 高田村役場編（当館所蔵写真資料 No.499）